

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい (さくら棟・ひまわり棟)		
所在地	〒820-1103 福岡県鞍手郡小竹町勝野4202番地の7 Tel 09496-2-8882		
自己評価作成日	令和元年11月24日	評価結果確定日	令和2年01月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和元年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的でゆったりとした雰囲気を大切にし一人ひとりの生活のペースを重視し安心・安全に生活して頂ける様にしています。自立支援の姿勢を基本に一人ひとりの出来る力の継続維持に努めています。ご家族様と連絡相談を密に行い、共に利用者様を支えて行ける関係作りを大切にしています。認知症ケアについての理解を深める為に研修に参加し勉強会で職員に周知して専門性を高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きんもくせい」は、介護老人保健施設併設の広い敷地の中に16年前に開設した定員18名のグループホームである。母体である医療機関による月2回の往診と病院看護師、ホーム看護師、介護職員との連携で安心の医療体制が整っている。隣接する施設の秋祭り等、行事への参加や合同で行う避難訓練等、協力関係を築いている。月2回の読み聞かせのボランティアを始め、中学生の職場体験、専門学校の実習生、県立大の看護実習生を受け入れ、町民祭りへ利用者の習字の作品やホーム行事の写真を展示する等、地域との繋がりと次世代の人材育成に力を入れて取り組んでいる。資格を持ったスキルの高い職員が定着し、手作りのレクリエーションで利用者の笑顔を引き出し、その人らしい楽しい暮らしの支援にチームで取り組んでいる、グループホーム「きんもくせい」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く場所に基本理念・各ユニット理念を掲示し、毎月のホームカンファレンスで基本理念・各ユニット理念の読み上げを行い、一人一人が理念を意識して業務を行えるようにしている。	基本理念と各ユニットの理念を見やすい場所に掲示し、毎月のホームカンファレンスの中で読み上げ意識づけを行っている。リーダー研修を受講した職員の提案でユニット毎に理念を作成し、利用者が安心できる言葉かけを行うこと、目線を合わせて笑顔で接する事をそれぞれ掲げ、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々による「朗読会」等を通じてご利用者様と交流を行っている。	町民祭りに利用者の習字の作品や行事の写真を出展したり、地域のボランティア、専門学校の実習生、看護実習生、中学生の体験学習の受け入れ等、地域に開かれたホームを目指し、努力している。また、併設老健施設の秋祭りには多くの地域住民や家族が参加し、利用者も見物に出かけ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事でグループホームでの行事・活動内容・ご利用者様の作品展示など、紹介を行い、認知症の方の理解や支援方法等を感じて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い日々の過ごし方や、行事・事故報告での取り組みを報告することで意見交換や行事についてのアドバイスを頂きサービス提供に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、入退居者状況や利用者の生活状況、事故、ヒヤリハット、行事、外部・内部研修受講についての報告を行い、参加者委員からは、質問や意見、情報提供を受けて話し合い、出来る事からホーム運営に反映させている。	メンバーが固定化し報告会が中心になっているため、参加委員の増員を図り、会議の内容を工夫して、参加委員にとっても知識や情報を得る貴重な機会となる会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者や日頃から連絡や報告を行い事業所の現状やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くようにしている。	運営推進会議に役場担当者の参加があり、ホームの実情を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、毎月の空き状況の報告や事故等の報告を通じて、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設立し定期的に勉強会を行い、職員一人一人が意識し、問題になるケアをしないように努めている。	職員が集まるミーティングの時に、身体拘束廃止委員会として話し合いを行っている。定期的に研修を実施して、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、共通理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームカンファレンスの内部研修で資料を基に、高齢者虐待防止関連法・虐待の種類や介護職としての考え方について理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用者の中で日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいないが、内部研修で資料や制度について理解を深めている。	権利擁護の制度については、内部研修で学ぶ機会を設け、全職員が理解できるよう努めている。また、利用者や家族から制度の相談があれば、資料やパンフレットを用意して、内容や手続き方法を分かり易く説明し、利用者の権利や財産が被害を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	両管理者が契約に立ち合い、契約書内容をご家族に説明し理解を得てから契約の同意を頂いている。契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様のご家族へは密に連絡を行い、ご家族の意見や要望を伺い、ケアに反映及び改善するようにしている。	家族の面会時にコミュニケーションを取る中で、家族の意見や要望、不安な事を聞き取っている。運営推進会議に家族の参加があり、活発な意見交換が行われ、それらの意見や要望をホーム運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホームカンファレンスを行い意見交換が出来るようになっている。	月1回、19時から1時間半程度、ホームカンファレンスとケアカンファレンスを実施し、夜勤者以外は参加している。利用者の処遇についての気づきや提案の他に、事故やヒヤリハット、物品購入や業務についても活発に意見交換が行われ、出された職員の意見や要望を出来るだけ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得などの職員の努力や日頃のご利用者様への対応を把握し資格取得による昇給や正社員への昇格を行っている。又、外部研修などの参加で学ぶ機会を増やし向上心を持って働けるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を意識せずその個人の個性や能力へ目を向けている。色んなアイデアや意見が出しやすい職場作りを意識している。スキルアップの自己啓発に関しては支援している。	制作や調理、レクリエーション等、職員一人ひとりが特技や能力を発揮して生き生きと働くことが出来るよう、役割分担を行っている。職員の習熟度や経験に応じた外部研修受講や資格取得を奨励し、そのためのバックアップ体制も整え、職員が向上心を持って意欲的に働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人の人権や権利に対し尊重しお互いに助け合う気持ちを大切にしている。ケアに対し奉仕の気持ちを大切にしている。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者の個性やこれまでの生活習慣に配慮し、その人らしい人生が継続出来るよう支援している。理念の中に、利用者の尊厳を大切にする事を掲げ、職員は、常に意識しながら介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や経験など段階に応じて認知症ケアに必要な研修の参加を行い学んだ事を他職員に伝達する機会を持っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会や社会福祉協議会の研修に参加してサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人やご家族様に困っている事やご希望を伺いご本人が不安なく生活出来るようにプランに反映している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時にご家族が困っている事や希望などはないか、管理者・ケアマネを中心に話す機会を持ち、対応できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に話を聞き現在利用しているサービス担当者及びかかりつけ医等から情報や意見を聞きどのようなサービスが良いかを見極めて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の人生背景やその方の思いを大切にケアだけではなく心から寄り添い安心して過ごして頂けるように支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも密に連絡や介護についてご協力を頂きホーム内の行事にも参加して頂いたり職員とご家族と一緒に支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様のご希望時に職員と買い物や自宅などへの外出を行ったりと馴染みの人・場所との関係作りに努めている。	利用者の家族や親戚、知人等の面会時には、ゆっくり寛げる雰囲気作りを心掛け、必要であれば職員も中に入って関係作りに努めている。自宅への一時帰宅や外泊、家族と馴染みのオートレースに出かける等、本人の意向を聴きながら、これまでの馴染みの人や場所との関係が、ホーム入居で途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が楽しく安心して生活できるように共通の趣味や話ができる様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気により入院になると面会したり、MSWとの連絡を取り合い状態の把握を行いご家族の思いや希望に添える様に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴や人生背景など多くの情報を集めてご利用者様の思いに沿った生活が送れるように努めている。	職員は、日常会話の中から、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、利用者の思いが実現できるように努力している。また、意思の疎通が困難な利用者については、家族に相談したり、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人様にお話を伺いアセスメントシートを活用しケアプランに反映しサービスに活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の生活について記録に残し、ケアや関り方について問題があれば職員同士で話し合いを行い、同じケアができる様にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネ・担当職員を中心にご利用者やご家族の意向、職員の気付きや意見を収集してケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。定期的な見直し、状態変化に応じて家族と相談し介護計画を作成している。	担当職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望、心配な事等を聴き取り、毎月のカンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状況が変われば、家族や主治医と話し合い、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランの実施について個別に記録し情報を職員間で共有して、ケアプランを実施介護計画の見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望にて介護保険の更新の手続きを行ったり病院受診などの協力病院との連携をとることで24時間体制で受診の対応するなど、安心して生活できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力にて朗読会や昭和琴の演奏会等の慰問受け入れを行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に添える様に、医療機関の確認を行い対応している。協力機関への受診、月二回の往診による支援を行っている。	母体である医療機関の医師が主治医として月2回の往診を行い、往診以外の週に病院の看護師が健康チェックに訪れている。精神科等、他科受診は家族と協力しながら行い、情報の共有に努めている。ホーム内にも看護師を配置し、看護師と介護職員が連携して安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状態の変化について看護師や協力医療機関の看護師に連絡相談しながら支援している。往診のない週は協力医療機関から看護師が訪問しご利用者様の状態観察を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院の関係者との情報交換や相談に努め、対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてご利用者様・ご家族様の希望を聴き事業所としての方針を説明し出来る限り長い時間をグループホームで生活できるように支援している。	重度化や終末期に向けた方針については、ホームで出来る支援について説明を行い、利用者、家族の希望を聞いている。利用者の状態変化や重度化に伴い、関係者や家族と話し合い、病院への入院支援を行っている。職員は、出来るだけ長く利用者がホームで過ごす事が出来るよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生やご利用者様の急変に備えてマニュアルを作成し適切な対応が出来るように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、消防署より指導を受け職員それぞれが災害時に対応できるようにしている。	年2回、昼夜想定避難訓練を消防署の協力を得て実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者全員が安全に避難出来る体制を整えている。また、隣接の介護老人保健施設と合同で避難訓練を行う等、非常時の協力体制を確認している。非常食、飲料水も備蓄している。	夜間、夜勤者1人で9名の利用者全員を安全な避難場所に誘導する体制を確立するために、ホーム単独での訓練を繰り返し行う事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべてのご利用者様がその人らしさを失うことなく生活して頂ける様、内部研修を実施し高齢期の心理状態や認知症ケアについて理解を深めている。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、カンファレンスの中で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に合わせて、言葉遣いや対応に配慮したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務についても管理者が職員に説明し、周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感情や思いの表出がしやすい様意識しながら日々の声かけ、会話を信託関係の構築に努めている。訴えには優しく傾聴するように心がけ、ご自分で決定し納得出来るように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりの送ってきた生活に目を向け希望に沿う事が出来る様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備など洋服を選ぶ際ご利用者様へ好みを聴きご本人様の好みを優先し着用して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みを把握し暖かい出来立ての料理を召し上げて頂いている。個々の嚥下状態、咀嚼状態に合わせて食材の形態を変え提供している。後片付けなどご利用者様と一緒にしている。	食材は委託業者に発注し、職員が手作りの食事を提供している。利用者と職員はテーブルを囲んで同じ食事を一緒に食べ、家庭的な食事の時間を楽しんでいる。食器洗いやテーブル拭き等、利用者の力に合わせた手伝いをお願いしている。誕生日には手作りケーキ、正月は手作りおせちで祝いし利用者大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外部業者に依頼し高齢者に合わせた栄養バランスのものを提供している。1日の水分についてはチェック表を作成し摂取量の確認を行い、ご本人様の状態に合わせ医師と相談しながら摂取が進まない時は好みや嗜好を考慮して提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはなるべくご自身の力でして頂けるように声掛けを行い介助が必要な方については出来ない部分について介助を行う事で清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員の声かけによる小まめなトイレ誘導を行っている。尊厳やプライバシーを常に意識し声掛けの仕方やさりげない支援など個人の性格や精神の状態に合わせた対応を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者が重度化しても職員2人体制で介助し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望を聞きながら、それぞれの状態に合わせて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防も兼ねて水分補給をこまめに行っている。毎日の体操や必要時には腹部マッサージを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に添える入浴ができるように支援してる。	入浴は、利用者の希望を聞きながら、健康状態や気分に合わせて一日おきの入浴を基本として行っている。また、入浴の時間は、利用者と職員が一对一でゆっくりと関わる事のできる大切な機会と捉え、コミュニケーションに努めている。また、利用者の全身の状態や皮膚観察も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調に合わせて自由に昼寝して頂いたり眠れない方には職員が寄り添い温かい飲み物を提供しコミュニケーションをとったりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と副作用について薬局からの処方箋をカルテに綴じいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントやご家族様面会時に話を伺ったり、本人様との会話の中から生活歴や趣味嗜好について把握し、送ってきた生活に基づいた役割を担って頂いたり、趣味に関連した取り組みや話題の提供を行い活気ある生活を支援出来る様心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にご利用者様の意向を取り入れた外出行事を設定している。日常生活の中でも一人ひとりの希望に沿って買い物やドライブ・外出・が外泊などご家族様の協力も得て行っている。	外出レクリエーションを企画し、年2回全員参加の外出行事を行っている。気候の良い時期には、筑豊緑地にドライブに出かけたり、敷地内を散歩する等、利用者の気分転換に繋げている。家族と一緒に自宅へ帰ったり、外食を楽しむ方もおられ、家族と協力しながら外出できるよう支援している。	利用者の重度化が進み、職員の勤務体制や人員不足が続き、日常的な外出が困難になっているので、現体制で出来る外出支援を検討し、利用者の生きがいに繋がる取り組みを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に沿ってお金を使えるようにご家族様と協力して支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の公衆電話が利用できるように手助けしたり、必要時にはご家族様と連絡が取れる様に支援して。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に行事の写真を飾ったり、季節ごとの飾りつけを行う事で季節感を出して居心地が良い雰囲気づくりに努めている。職員も音や足音、声のトーンに配慮を行っている。	天井が高く開放的な室内は、清掃が行き届き、気持ちよく過ごせる環境である。季節毎の飾り物や利用者の作品、行事の写真を飾り、季節感、生活感を大切にしている。食事前には各種体操に熱心に取り組み、口腔体操を兼ねた歌声がリビングに響き、笑い声で賑やかな共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、一人で静かに過ごしたり、気の合うご利用者様同士でお話し出来る環境づくりをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた馴染みの家具等を持って来て頂き、居心地の良いように生活して頂いている。	ベッドと筆筒、洗面台、冷暖房設備が備え付けである。入居前に利用者や家族と話し合い、利用者馴染みのテーブルセットや椅子、テレビ、仏壇などを持ち込んでもらい、家族の写真や絵、花を飾る等して、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全体に手すりが設置されており、安全に移動出来るようにしている。トイレ等目につく位置に大きな文字で札を下げ認識しやすいようにしている。		